Tsushima maru press
平成18年1月31日発行　第9号

対馬丸通信

財団法人
対馬丸記念会

対馬丸記念館と遺族やサポーターを結ぶ、ふれあいのコミュニケーション紙

年頭挨拶

年初に来館者3万人突破
今年はいっそうの来館者増を!!

財団法人対馬丸記念会 会長 髙良　政勝

新年明けましておめでとうございます。

対馬丸記念館も開館して3年目を迎えることができました。これもひとえに国、県、那覇市を始め、多くの県民の皆様、協力会員のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

今年は年明け早々来館者3万人を突破しました。1月１３日午前10時30分、修学旅行で来沖した岐阜県立東濃フロンティア高校７０名が来館、2年次内田優花さんが3万人目の入館者となり記念品を贈呈しました。

昨年は小泉純一郎内閣総理大臣を初め、小池百合子内閣府沖縄担当大臣、稲嶺恵一沖縄県知事、竹林義久沖縄総合事務局長、千玄室(第15代　千宗室)氏ら、日本を代表する方々にご来館いただきました。

記念館内外における語り部活動も昨年1年間で90回を数えました。企画展も3月「石田壽長崎原爆写真展」で多くの方々に戦争の悲惨さ、残酷さ、無意味さを訴え、6月「対馬丸調査と深海の神秘展」では、深海に沈んだ対馬丸の発見が如何に困難を伴うものであったかを紹介するとともに、世界のトップを行く日本の深海探査技術が子供たちに大きな夢と希望を与えたものと思われます。改めて独立行政法人海洋研究開発機構へ感謝申し上げます。

今年の企画展は3月に「戦後沖縄の写真展(仮称)」6月に「戦後沖縄の復興展－私たちはこのようにしてたちあがった」を開催の予定です。これらの企画展では戦後廃墟の中から立ち上がった沖縄の人々の写真や物品を展示することにより見る人に勇気と力を与えることができたらと思っております。

記念館がその社会的使命を果たすには運営が健全でなければなりません。今年はさらなる経費削減に努めるとともに、収入の大幅増を計らねばならず試練の年となるでしょう。対馬丸記念会協力会会員をはじめ、多くの皆様の御理解と、変わらぬ御支援をいただきたいと思います。

2006年が日本にとり、また世界にとって平和な年になりますよう皆様ともども祈念いたします。

平成17年慰霊祭及び開館一

昨年8月22日の平成17年対馬丸慰霊祭と、記念館開館一周年行事を写真で振り返ってみました

平和の群読と対馬丸の歌を合唱した若狭小の児童たち

高良会長の挨拶で厳かに始まった夜の追悼式

対馬丸記念館開館後、実質的には初の慰霊祭となった平成17年慰霊祭は、冒頭に若狭小学校児童合唱団による群読と小桜の塔の歌が響き渡り、児童たちへ平和希求の意識がしっかりと継承されている安心感を遺族へ与えました。

慰霊祭終了後、記念館内では遺族へむけた開館一周年記念行事が行われました。

独立行政法人海洋研究開発機構監事宮崎武晃氏（工学博士）による記念講演『対馬丸発見の経緯』では、図表や写真を使い、詰めかけた遺族に改めて詳細な説明がなされました。

その後、展示室で鎮魂の想いを込めた、『赤い花』をシンガーの透（とう）が切々と歌い上げました。この曲は作曲家の鎌倉淳爾氏が数年にわたってあたためていた曲で、”愛する者を失った人の心の中にあり続ける何か”に想いをはせ全精力で書き上げた曲ということでした。

また、琉球朝日放送平田嗣弘社長より、平成17年4月30日（土）に放映された、米国調査ドキュメンタリー『記憶の扉～対馬丸の悲劇　60年目の真実～』のDVDが記念会と上原清氏（生存者・記念会評議員）へ贈呈されました。

対馬丸が撃沈された午後10時12分には、屋上において遺族・関係者による黙祷が捧げられました。運命の時間にあわせて、今回も遺族・生存者で評議員の湧川祐育氏が手配したタグボートが波之上ビーチの沖合から汽笛を鳴らしそれを合図に一斉に黙祷しました。

周年記念行事が厳かに行われました

対馬丸発見の経緯が遺族にたいしてスライドや図表を使ってわかりやすく説明された

対馬丸発見の経緯を講演した
独立行政法人 海洋研究開発機構
宮崎武晃 監事（工学博士）

琉球朝日放送 平田嗣弘社長より、ドキュメンタリー『記憶の扉～対馬丸の悲劇 60年目の真実～』のDVDが寄贈された

鎮魂コンサート『赤い花』の司会のため、東京からボランティアでかけつけてくれた、NHK 鎌倉千秋アナウンサー

第２回対馬丸記念会 健康講演会

－肺癌専門医としての体験から－
長寿県・沖縄に赤信号点灯

講師：源河　圭一郎
（国立沖縄病院名誉院長）

平成17年12月15日（木）記念館の企画展示室で、医学博士源河圭一郎氏（あいわクリニック院長・国立沖縄病院名誉院長）を講師に迎えて、第２回健康講演会が行われました。沖縄はその気候風土から、日本でも一番の長寿県と言われてきましたが、2000年の厚生労働省の発表で、沖縄県男性の平均寿命が上位から一気に26位に転落という驚きの報告がありました。源河先生は更に、女性は現在何とか全国１位の地位を保っているが、近い将来、男性と同様に１位の地位を明け渡すだろうとおっしゃっていました。原因として、交通事故の増加・郷土料理から欧米風の高カロリーが好まれてきた食生活の変化・運動不足により複数の生活習慣病を持つ状態・喫煙者の多さを、指摘しました。また肺癌専門医としての立場から、源河先生は沖縄県は歴史・地理的環境が日本本土から隔絶された時代が長く続いたため、全国とかなり異なる疾病があります。特に癌を例に挙げると、沖縄は肺癌・食道癌・リンパ系癌が全国的に高率に発生し、逆に少ないのが胃癌であると説明されました。会場の皆様は、ご年配の方が中心でしたが、健康で長寿を保つ生き方をするにはどうすればよいか、医師としての長年のご経験から日常生活をいかに規則正しく送り、生活習慣を改善することによって癌の予防をはじめとする病気にならず、健康な毎日を送れるかをスライドを使いながら、一つひとつの項目を丁寧にご講話頂きました。

また源河先生は、学童疎開で対馬丸と一緒に出航した船団の一隻である暁空丸に乗船し、対馬丸撃沈を直接目撃されています。今回は専門医としての立場での講演でしたが、今後機会がありましたら、疎開の体験も講演していただけたら幸いであります。

企画展予告

第5回企画展

沖縄戦後の復興展（1945～1955）

私たちはこうして立ちあがった

平成18年度の最初の企画展として、「沖縄の復興」をテーマに掲げて、6月に開催いたします。内容は戦前の平和な時代から、戦後の瓦礫と化した沖縄の風景・生活・子供たちの写真をはじめ、戦前・戦後の同一地点の写真の比較などが中心となります。終戦直後の沖縄（1945～1946）では、「強くたくましく生きる」をテーマに琉米歴史研究会所蔵の写真を中心に、収容所の生活・働く子供たち・馬小屋校舎・一般住民の生活などの写真がご覧になれます。企画展では、写真だけでなく戦後まもない当時の人々が、物資の不足している不自由な状態の中でも、「物はなくとも知恵がある」という不屈の精神を発揮し、身の回りにあった有り合わせの物や、ある時は米軍廃品を使って作った生活用品も同時に展示します。琉米歴史研究会からは、衣類数点（刺繍入りワンピースその他）、薬きょう加工品（花活け・灰皿・香炉など）、手作り品（草履・下駄・ランプなど）、ジュラルミン製品（ブレスレット）などが出展されます。更に企画展は個人の方にも展示協力をお願いする予定です。また、記念館のある那覇市若狭住民の方から、ジュラルミン製品（ハガマ・七輪茶釜・灰皿）、手作り品（天秤計りなど）等の品物を寄託していただいております。

太平洋戦争で唯一の地上戦を経験し、廃墟となった沖縄の戦後は、生活をはじめ、全てにおいて文字通りゼロからの出発でありました。しかし沖縄の人々はそうした逆境にめげることなく、持ち前のバイタリティーで、今日に見られる奇跡的な復興をとげました。今回の企画展にあたる1945年から1955年の約10年は、その復興の原点にあたる時代です。来館される方で特に子どもたちには、こうした沖縄の先達の人々の持っていた復興への力強さや、自分たちと同世代である当時の子どもたちの姿も、ぜひご覧になっていただきたいと思います。

また、17年度末の3月には、第4回企画展として、連動企画『戦後沖縄の写真展（仮称）』も行います。これは、琉米歴史研究会が収集した一般の米兵が移した（米軍の公式記録ではない）戦後沖縄の写真を、子どもたちを中心に展示するものです

速報 入館者3万人突破

年頭あいさつや、マスコミ報道などでもご存知のように、平成18年1月13日、開館以来の入館者が3万人を越えました。約1年4ヶ月余りでの達成です。

17年度現在、一ヶ月の平均入館者数が約1700人、一日平均86人で推移しています。一昨年、昨年は開館そして開館一周年と話題性もあり、県民にも足をお運びいただきましたが、今年以降は観光客特に修学旅行の更なる誘客を課題に取り組んでいきたいと考えています。

また、6月の慰霊の日を中心とした沖縄の平和月間には、これまで小学生の団体見学はありますが、中学生の学校単位での見学があまりないことから、その方面への取り組みも考えてまいります。

いずれにしても事務局のみならず、遺族・協力会員各位にご協力いただくことが不可欠ですので、平成18年度以降も会員継続ならびに、一層のご支援をよろしくお願いいたします。

3万人目の入館者となった、岐阜県立東濃フロンティア高校2年生内田優花さん

児童グループから初の寄付金

天妃小4年生が、バザーの売り上げ金を記念館に寄付

（財）対馬丸記念会では、対馬丸記念館の活動資金としてこれまで多くの企業、篤志家、遺族、有名人から寄付金を頂戴して参りましたが、今回初めて児童たちから寄付金を頂きました。

平成18年1月25日那覇市立天妃小学校4年生代表が、記念館を訪れ、12月に行った『天妃っ子まつり』での売り上げ金を、記念館の平和活動に役立てて下さいと託したものです。代表の金城新実、松本愛瑞沙、饒波侑大さん達は、「環境学習で作った、牛乳パックハガキなどをバザーで販売しました。売上金の有効な活用をみんなで話し合った結果、昨年6月に平和学習で訪れた対馬丸記念館で役立ててもらおうということになりました。」と語ってくれました。

子供達からの寄付金の第一号が、対馬丸と縁のある天妃小の児童からとあって、高良会長も感激し「小遣いからではなく、自ら得たお金を寄付していただいたことに大変感激しました。対馬丸で犠牲になった天妃の先輩達も天国で喜んでいることでしょう」と語り、子供達の善意に感謝しました。

トピックス

平成17年9月30日(金)
東京那覇会来館

関東地方在住の那覇市出身者で結成された、東京那覇会(旧那覇市立八小学校合同同窓会)の皆様が記念館に来館し、併せて小桜の塔で献花をしました。また、館内見学に先立ち東京那覇会々長の山路安清氏より記念館へ寄付金が贈呈されました。

平成17年9月28日(水)
ボーフィン号乗員の新資料入手

琉米歴史研究会喜舎場静夫理事長(対馬丸記念館資料収集員)が米国出張の折りにボーフィン号乗員のカーター氏よりアルバムを借り受け帰国。記念館において記者会見を行いました。カーター氏は魚雷発射時の状況として、対馬丸攻撃時に潜水艦は浮上していたこともあらたに証言しました。

平成17年9月28日(水)
ワダツミー対馬丸に寄せてー　CD贈呈式

歌手の琉智(りゅうさとし)氏から、CD「ワダツミー対馬丸に寄せてー」が、記念会へ寄贈されました。対馬丸で亡くなった子供を含むすべての犠牲者を偲ぶ琉さんのメッセージや想いが力強く唄われています。

CD300枚が会長に手渡された

平成17年9月30日(金)
対馬丸哀歌　CD贈呈式

生存者の宮城マリアさんのご主人、D・バートラフ氏と娘のエミコさんが記念館を訪れ、マリアさんが作詞し海勢頭　豊さんが作曲した『対馬丸哀歌』のCDを寄贈しました。

同曲は、学童疎開船対馬丸犠牲者追悼60年記念ということで新たにCD化されたものです。

平成17年9月14日(水)
内閣府沖縄振興局　藤岡文七局長ご来館

前局長の東良信氏の後任として、沖縄振興局局長に就任された藤岡文七氏が、沖縄視察の折りに、対馬丸記念館に来館されました。

外間副会長の案内で遺影の説明をうける藤岡内閣府沖縄振興局長

平成17年9月24日(土)
絵画"対馬丸の児童"寄贈

対馬丸事件当時垣花国民学校の訓導で、児童たちと一緒に乗船する予定だった大見謝　文氏が児童への鎮魂の想いを込めて制作した絵画2点が記念館へ寄託されました。

氏は対馬丸へ乗船できず、以来ずっと児童たちと、氏の代わりに乗船した先生への想いが心の中から消えず、数年前に鎮魂の想いでやっと描き上げた絵だということです。

友人たちのすすめで当館へ寄贈されました。

対馬丸記念館　健康相談

無料歯科健康相談を実施中です

期　間：平成18年1月5日（木）～3月30日（木）
期　日：期間中の毎週木曜日と土曜日（週2回）
木曜日は休館日ですので展示の見学はできません
ところ：記念館2階
時　間：午前11:00～午後3:00
要予約：お電話にてご予約お願い致します
予約電話（098）941-3515（対馬丸記念会事務局内）
協　力：社団法人　南部地区歯科医師会

今年度の福祉相談事業として、1月から3月までの毎木曜日と土曜日に、社団法人おきなわ南部地区歯科医師会の全面的なご協力を得て、歯科健康相談を実施しています。

最近歯の調子や入れ歯の具合が悪いなど、歯の問題を抱えていらっしゃる、遺族・協力会員・地域の皆様、この機会にあなたの歯の健康状態について是非ご相談下さい。

また、健康な歯をお持ちの方に対しても、今後も健康な歯を維持し、虫歯にならないためのオーラルケアについてもご指導いたします。

時間の制約がありますので、お電話でご予約の上ご来館下さい。

平成18年4月より入館料が変わります

臨時理事会で承認された入館料改定の経緯と経営の現状を報告します

平成18年1月11日（水）に対馬丸記念会の財務と予算関係の臨時理事会が開催されました。

厚生労働省並びに内閣府の事業関係の特別会計は平成18年度も継続して予算が付く見込みですが、記念館運営に係わる一般会計の赤字予想が事務局より報告され、審議されました。

入館者の推移を昨年4月から12月ベースで収支計算すると現在のままでは赤字が予想されます。記念館が開館した平成16年度は寄付金等で収入が増え、平成17年度に繰り越し金を残すことができましたが、平成18年度は前年度の入館料と、協力会会費、寄付金等の収入と、記念館運営に係わる諸経費の合計収支が赤字になり、改善策として入館料の値上げによる試算が示されました。慎重な審議を行った結果、更なる入館者増、記念会会員増への努力とともに、入館料の値上げもやむなしと全会一致で決まりました。

事務局では昨年より経費の削減・圧縮を行って来ましたが、収入増以外の自助努力だけでは赤字化は避けられず、国から交付される事業費を正当に執行するためにも、経営の安定は至上命令です。

記念館が観光コースとして定着し入館者増が見込めるにはあと何年かを要する見込みですが、それまで赤字を続ける訳にはいかないことから今回の結論に達しました。

4月新年度より新料金が施行されますが、すでに修学旅行の予定を現在の入館料で算出している団体へは、新料金は適用しない予定です。

改定の主な点は、料金体系を見直し、従来の小人料金を小学生と中・高校生に分け、対馬丸の児童と同年代の子供達の入館促進をはかり、平和学習のお役に立つ事を目的としております。新料金では、家族の負担増を押さえるためファミリー割引を導入しました。

●新料金 平成18年4月より		●旧料金	
小　学　生	100円	小人	200円
中・高校生	300円	大人	300円
大学生及び一般	500円		

※団体割引（20名以上）10％引き
ファミリー割引（合計入館料が1000円を越えた場合）定額1000円

編集後記

開館からあしかけ3年目の年が明けました。遺族・協力会会員の皆様には良いお年をお迎えの事と存じ上げます。3年目の今年は私たち事務局にとっても正念場の年になりそうです。職員一同新たな気持ちで頑張ますので、本年も皆様方の御支援・ご協力よろしくお願い致します。

財団法人 対馬丸記念会　〒900-0031 沖縄県那覇市若狭1-25-37　TEL.(098) 941-3515 FAX.(098)863-3683
e-mail: info@tsushimamaru.or.jp　URL: www.tsushimamaru.or.jp／